

# 蹴鞠紋鏡（しゅうきくもんきょう）

令和2年度に千石唯司氏から新たに寄贈された「蹴鞠紋鏡」を展示します。

当館では神仙世界や楽園などの非現実的な図像が表された鏡を中心に展示していますが、今回は趣向を変えて、2022年にW杯が開催されるサッカー（アソシエーションフットボール）にも通じる「蹴鞠（しゅうきく／けまり）」の情景を表した鏡をご覧ください。



当館所蔵鏡の紋様模式図



湖南省博物館所蔵鏡の紋様模式図  
※湖南省博物館所蔵の蹴鞠紋鏡は直径11.0cm

※いずれの模式図も同じ縮小率で表示

## ●表された蹴鞠の情景

園庭で蹴鞠に興じる男女の情景が円形の鏡の裏に半肉彫りで表現されています。

髪を高く結った女性（左手前）は鞠を蹴り上げ、頭巾を被った男性（右手前）は上半身を前傾させて待ち構えています。女性の足先にある鞠には草の継ぎ目状の表現がみえます。二人の背後では女性（左奥）と男性（右奥）がその様子を見守るように控えています。

背景となる園庭には、奇怪な形をした太湖石（たいこせき）（※）が中央奥にそびえ立ち、その両側にのびる柵は枅形を組み合わせて描かれ、これらと人物の隙間を埋めるように草が配置されています。

※太湖石（たいこせき）：

中国江蘇省と浙江（せつこう）省の境界にある太湖やその周辺で採れる石灰岩。長い年月をかけた水の浸食による多数の穴があいた複雑な形が特徴。庭石等に利用される。

【参考文献】《蹴鞠紋鏡》

孔祥星・劉一曼 2001『図説中国古代銅鏡史』中国書店（※初出 1981年）

中国青銅器全集編輯委員会編 1998『中国美術分類全集 中国青銅器集 第16巻 銅鏡』文物出版社

中野 徹 2000「198 青銅足球図鏡」『世界美術全集・東洋編 第6巻 南宋・金』小学館

## ●類例について

展示品の類似鏡は、FIFA MUSEUM所蔵品のほか、湖南省博物館や中国国家博物館所蔵品など複数面が確認できます。ただし、後者2例については鏡の直径が小さく、人物や背景物の形や配置などモチーフは概ね同じですが、園庭の柵、草や石、人物などの細部の表現や配置が異なり、複数の原型が存在していたことが分かります。

## ●娯楽としての蹴鞠を鏡に表すこと

唐時代末以降、鏡の裏面の装飾紋様は人物などの絵画的な描写へと変化します。

蹴鞠紋鏡には、少人数で鞠を蹴り渡す蹴鞠の一種「白打（ばいだ）」で遊ぶ様子が鏡の裏に描かれたとみられ、男女問わず当時の娯楽に興じる情景を伺うことができます。蹴鞠の人気は、現代の「フットボール」にも通じ、好きなものを日用品に描いて身近に置きたい思いは今も昔も同じといえます。

令和4年度 夏季スポット展示 解説資料

しゅうきくもんきょう

# 蹴鞠紋鏡

鏡の裏に“けまり”で遊ぶ。

令和4年7月21日（木）～9月11日（日）



初  
展  
示  
!!

令和2年度 新規寄贈

蹴鞠紋鏡〈唐時代末～宋時代：10世紀～13世紀頃〉 直径15.1cm

兵庫県立考古博物館 加西分館  
古代鏡展示館  
Hyogo Prefectural Museum of Ancient Bronze Mirrors



〈HP〉



〈BLOG〉

〒679-0106 兵庫県加西市豊倉町飯森1282-1（兵庫県立フラワーセンター内）

TEL：0790-47-2212 URL〈HP〉<https://www.hyogo-koukohaku.jp/kodaikyou/>

FAX：0790-47-2213 〈blog〉<https://kodaikyou.blogspot.com/>

〔主催〕兵庫県立考古博物館加西分館

〔後援〕兵庫県 兵庫県教育委員会



# 日本と中国の蹴鞠について



①日本の蹴鞠

## ●日本の蹴鞠と起源

日本における「蹴鞠(しゅうきく／けまり)」は、鞠を蹴り上げて地面に落とさないように一定の高さを保ちつつ次々と人に蹴り渡し、その回数を競う球技です(①)。その起源は、古代中国の球を蹴る球技、「蹴鞠(しゅうきく)(=CuJu)」にさかのぼります。

## 2. 中国の蹴鞠の普及と日本への伝来

社会が安定した唐・宋時代には、蹴鞠は娯楽としてさらに盛んになり、大都市から地方まで、身分・年齢・性別などを問わず広く普及します。

### ●唐時代(618～907年)

蹴鞠には、「白打(ばいだ)」と呼ぶ球技も現れました。白打は、鞠を空中に蹴り上げてリフティングのように手を使わずに操作する現代のフリースタイルフットボールに似た球技(③)です。高度な技術を要しますが、宮廷に仕える女性(仕女)も練習して実演披露するなど、上演・鑑賞する娯楽として男女を問わず広く楽しまれました(④)(※4)。



③蹴鞠「白打」に通じる  
現代のフリースタイルフットボール



④宮廷の庭園で蹴鞠に興じる仕女

### ●宋時代(979～1279年)

宋の皇帝太祖は自身で蹴鞠をするほど愛好し、その興じる様子は絵画の主題となり後世に複数の作品が描かれています。また、この時代には蹴鞠が職業としても成立して同業者組合も現れ、「場戸(じょうと)」や「毬門式(きゅうもんしき)」などの新たな競技も誕生しました。



⑤蹴鞠「三人場戸」の状況

## 1. 中国の蹴鞠の初現

### ●戦国時代(紀元前403～221年)

蹴鞠の最古の記録では、斉国の都である臨淄(りんし) (現在の山東省)において民衆の娯楽の一つ「蹋鞠(とうきく)」として確認できます(※1)。球技の詳細は不明ですが、すごろく的一种である六博(りくはく)や、闘鶏などの娯楽とともに記されています。



②漢時代の画像石にみえる球を使用した曲技

### ●漢時代(紀元前202～紀元後220年)

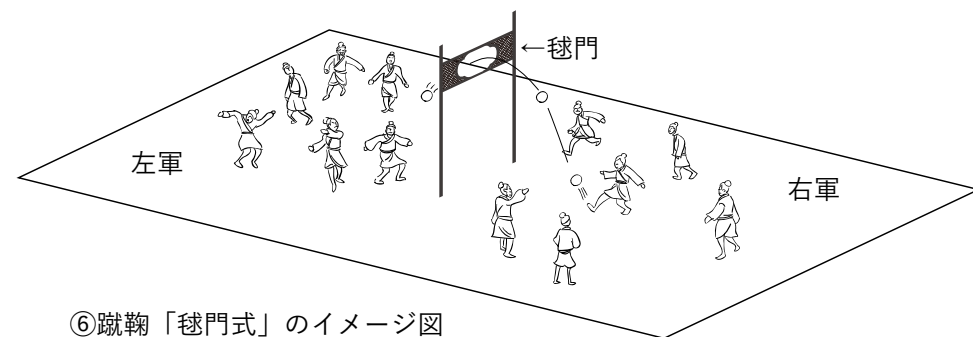
宮廷の娯楽として盛んになり、皇帝も愛好しました。詳細は不明ですが、画像石(※)には球を用いた様々な曲技の様子が描かれ、球を蹴り上げるような表現も見えます(②)。

また、軍事訓練や人材登用に利用される蹴鞠もありました(※2)。この場合、丸形の鞠の使用や、壁に囲まれた競技場、1チーム6人の2チーム対抗戦、チームの隊長や審判の設置、審判・選手の心構えなどのルールが存在したと推測されています(※3)。

※画像石(がぞうせき)：画像を彫刻した平板な石。墓の建材等に利用され、後漢時代に盛行する。

### ●日本への「蹴鞠」の伝来とその後

日本には、飛鳥・奈良時代に唐より伝わったと推測されています。平安時代には、「白打」に由来する蹴鞠が貴族の間で盛んになって日本独自の形式が整い、平安時代末期～鎌倉時代初期には「蹴鞠道」が成立して武士の間にも普及します。その後、蹴鞠道の家により伝承され、江戸時代には庶民へも普及し、今日まで伝わっています。



⑥蹴鞠「毬門式」のイメージ図  
※本来は各チーム10数名の選手で競技。

## 3. 中国の蹴鞠の衰退

### ●明時代以降(1368年～)

明時代には変わらず幅広い層に人気がありましたが、軍の兵士が蹴鞠に夢中になって訓練を疎かにしていることを理由に、1389年に禁止令が出されました。これ以降、清の時代(1644～1910年)を経て蹴鞠は徐々に衰退していきました。

### ◆蹴鞠の「場戸」と「毬門式」◆

「場戸」は白打を基に、1人～複数人の中で技や蹴り渡し方などを設定して競技化したものです(⑤)。これを発展させた「毬門式」は、2チームで対戦し、ルールに従って自軍内で鞠を蹴り渡し、競技場の中央に設置した一つの毬門(二本の柱上方の間に網を張り、その中央に通過用の穴を設けたもの)に鞠を通して相手チームに蹴り渡し、これを繰り返していく競技です(⑥)(※5)。

【典拠】  
(※1) 劉向『戦国策』・司馬遷『史記』蘇秦列伝  
(※2) 班固『漢書』・劉向『別録』  
(※3) 李尤「鞠城銘」  
(※4) 『全唐詩』  
(※5) 汪雲程『蹴鞠図譜』・孟元老『東京夢華録』など

【挿図】  
①④⑥各種HPを参考にイメージ図作成。  
②漢代画像石「南陽縣石橋鎮畫像十(鼓舞)」の拓本を元に作成。  
③杜堇『仕女卷』(明時代)を元に作成。  
⑤汪雲程『蹴鞠図譜』(元時代末)を元に作成。

【参考文献】《蹴鞠》  
張晏行 2017「中国蹴鞠的演變-以漢、唐、宋為主」東吳大學歷史學系碩士班論文  
潘蕾 2018「古代における中日文化交流の一側面-蹴鞠文化を中心に-」『国際学研究』第8号 桜美林大学大学院国際学研究所  
杭侃 2006『図説 中国文明史7 宋 成熟する文明』創元社  
池修 2016『日本の蹴鞠』光村推古書院